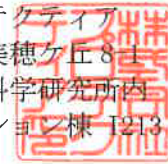


検査報告書

依頼者 株式会社 ACT JAPAN 様

試験機関：株式会社プロテクトイア
試験場所：大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1
大阪大学産業科学研究所内
インキュベーション棟 T213
試験責任者：田中 伸幸

当社が拝受しました試験結果を下記のとおりご報告いたします。

検 体 ACT クロス

表 題 抗ウイルス加工クロスによるインフルエンザウイルス及び
ネコカリシウイルスへの拭き取りによるウイルス除去率の評価試験実施日 インフルエンザウイルス拭き取り試験 2021年2月8日
ネコカリシウイルス拭き取り試験 2021年2月9日試験概要 上記検体のインフルエンザウイルスおよびネコカリシウイルスに対す拭き
取りによるウイルス除去率を評価する。

試験対象菌株・細胞・ウイルス株

Influenza A virus H1N1 A/PR/8/34 ATCC VR-1469
宿主細胞：MDCK 細胞(イヌ腎細胞) ATCC CCL-34
Feline Calicivirus F-9 ATCC VR-782
宿主細胞：CRFK 細胞(ネコ腎臓細胞) ATCC CCL-94

試験方法

ウイルスを播種するポリエチレン板 50mm×50mm にカットし 70%エタノール水で殺菌処理を行った。試験検体は 5cm 角にカットし、滅菌した精製水で湿らせた後水滴がでないほど固く絞ったものを用いた。ポリエチレン板に予め希釈調製したウイルス液 0.1 mL を播種後、試験検体で3回往復させウイルス液を拭った。またふき取り処理を行わないものを対照試験とした。処理後の試験検体に SCDLP 培地 10 mL を添加し抽出を行った後、1%ペニシリンストレプトマイシン含有 EMEM 培地を用いて 10 倍段階希釈系列を作成した。10 倍段階希釈系列を事前に播種した宿主細胞に 1 mL ずつ滴下し、37°C 5% CO₂ 下で1時間感染処理を行った。ウイルス感染後、細胞上清を 0.8%オキソイド寒天溶液に置換し、37°C 5% CO₂ 下で1-2 日間培養した。プラークの形成を目視で確認した後、5%グルタルアルデヒド溶液で固定し、メチレンブルー染色を行い、形成されたプラーク数の測定データを元に抽出液中のウイルス感染力価を測定した。

試験結果

記

供試ウイルス	除去率(%)
Influenza A virus H1N1 A/PR/8/34 ATCC VR-1469 (インフルエンザウイルス エンベロープあり)	99.9999%以上(検出限界)
Feline Calicivirus F-9 ATCC VR-782 (ノロウイルスの代替え ネコカリシウイルス エンベロープなし)	99.999%以上(検出限界)